

---

# 好きだよ……そしてバイバイ

惟央

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

好きだよ……そしてバイバイ

### 【著者名】

N1194D

惟央

### 【あらすじ】

最後の高校生活。最高の思い出を作つて卒業をするつもりだった。最高の友達と作る最高の思い出。しかし、俺は気付いていなかつたんだ。あの子に心を寄せている事を……。そして、告白をしようとした時……。

# PROLOGUE

## 【 Prologue 】

あんな生意氣で

いわむわく

だけど、笑顔が可愛くて

やつぱ泣き顔は見たくない

そんな彼女が好きだった 僕は着慣れた制服に身を包み  
鏡の前に立っていた。

今日から高校最後の一年間。俺はちょっと寂しさを覚えながら家  
を出た。

「行つて来る」

「行つてらつしゃー」

母親がそう言つたのがドアが閉まる瞬間に聞こえた。俺はそれを聞いてから歩きだすと、

「竜ーッー！」

俺は声がした方を向く。すると、同じ学校の制服を着た少女が駆け寄ってきた。

「おはよッー！竜」

「朝つぱりから女つぱく出来ないのかよ」

俺は苦笑しながら言つた。すると、少女は案の定、頬をふくらませて怒つた。

「うつさこなあー。竜は挨拶も出来ないの？」

「はーはー。希穂【キホ】、おはよー」

俺はそつ投げやつな感じで言つと学校に遅れるため歩き出した。

「ひよ、竜。待つてよー」

「学校に遅れる氣ーないから待たないー」

「ひどい！」

希穂はそう言いながらも俺の隣まで走つて來た。そして、キー ホルダー やマスク ビト がジャラジャラついたスクール バック で俺の背中を思いつきり叩いた。

「いつてツ！！」

「希穂チャンを待たない罰だあーーー！」

希穂はキヤハハと笑っている。

「んだと、てめえ！..」

俺と希穂は朝っぱらから追いかけっこをしながら学校に行つた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1194d/>

---

好きだよ……そしてバイバイ

2010年11月7日08時02分発行